

【国語】

次の文章を読んで、設問に答えなさい。なお、※印の付いた語句は、文末に《語句説明》がある。

古代ギリシヤ、特にアテナイは、民主主義発祥の地であつて、その一定の期間にわたる成功がいかなる条件に依存していたにせよ、ある種の民主主義の実行可能性を現実証明して見せることで、以後の政治思想の想像力に決定的な影響を及ぼした。しかし、テュキュデイドスの『戦史』の中のペリクレス演説など、簡単なものを除いて、そこで実際に民主主義を運営した人々自身の書いた民主主義（a）擁護論でわかれが読めるものは、ほとんど残されていない。むしろそこでは、アテナイの政治体制に対する批判として、もつとも首尾一貫した反民主主義論が生み出されたのであつて、後の思想への影響力からすれば、民主主義の擁護論よりも批判論のほうが大きかつたときえいえるのである。この反民主主義論の陣営のチャンプイオンともいふべきプラトンが行つた民主主義批判は、政治における知の問題を徹底的に問うことを基本戦略としている。

古代ギリシヤに欠けていたものは、ポリス（※1）から独立の個人と、その権利と自由の思想だといわれる。アテナイの「自由人」たちにとつては、ポリス生活こそが人生の関心事なのであつて、人はそこで生きそこで死ぬ。われわれからみれば彼らは、一種の政治マニアたちであつて、ポリスから切り離された個人の精神と生活の中に本質的な価値があるとは考えなかつた。後者のような発想は、社会を含む宇宙全体の秩序と個人を（1）タイジさせる、ヘレニズム期以降のストア派などの思想に初めてみられる。そしてそのようなギリシヤ起源の思想とキリスト教とが融合することで、本格的な西欧的個人主義思想の基礎ができたのである。この理解も、どの程度歴史的記述として正しいかは別にして、民主主義のタイポロジイという文脈で、（b）便宜的に前提しておく（c）ことにしよう。

古代ギリシヤの民主主義においては、ポリスの一員としての徳が語られ、その高德な人々が発揮する公共精神とプライドに（e）依拠して、民主主義は墮落から（d）免れることが期待された。徳としての自由と、そのような徳を備える人々の民主主義という戦略は、決して現代においても意味がなくなつたわけではない。社会の制度は、つねに究極的にはそれを運営する人々の自発的な行動規制に依拠している現代の民主主義も、政治家・官僚・ジャーナリストそして選挙民たちの自発的な行動規制を離れて、健全に機能するものではありえない。しかし現代のわれわれが、個人の徳にすべてを（e）委ねることができないこともまた明らかである。そこで、この過剰な政治的権力の制限を果たすべきものとして登場するのが、「個人の権利」の概念なのである。

混合政体とは、庶民としてのデモスの支配と貴族の支配との混合という意味であるが、この場合に何を貴族と考えるかで、異なる政治の像が浮かび上がる。

原義における貴族（アリストスーよき者、立派な者、勇氣ある者という点で最高の者）とは、世襲によつて決まる支配階級の（1）ことではなく、すぐれた者たちという意味である。アリストテレスはほぼこの原義とおりの意味で貴族を考え、ポリティア（※2）もデモクラティア（※3）もこの意味の貴族制を部分として含んでおり、両者の差は程度問題だ、と論じた。また自分自身も階級として没落の（2）カティにあるフランスの貴族であつたトクヴィルは、将来フランスの民主主義が成功するにはフランスの貴族が果たすべき役割があるのだと考えたが、彼はさらに、一八三〇年代のアメリカ民主主義に接してそれを高く評価しながら、そこで法律家たちが果たしている役割を、フランスにおける貴族のそれに（3）ダイタイするものとして理解したのである。また、マディソンにあつては、間接民主主義および独特のアメリカ大統領の間接選挙の制度は、人々がすぐれた者と考える者を代表として選んで、それに統治を委ねる制度であるから、庶民の知的・道德的レベルを直接反映する場合よりも高い政治の水準を可能にするのだ、と考えられたのである。もちろんこれらはすべて、プラトン以来の、庶民の政治能力に対する（f）懐疑を前提にするものである。

ただここでは、この場合の「すぐれた者」が、何においてそうなのか、という点には注意が必要である。国民全体の統治という意味のガヴァメントとは区別される、政府機関という意味でのガヴァメントは、公務員たちを(4) コウセイ員とし一定の目的をもった一つの事業共同体または事業組織である。組織暴力団と(5) タイコウする時の警察はそれ自身が一つの組織であるし、軍隊や消防署、郵便なども、はっきりとした目的をもつ、かなり排他的な、「統一体」である。この種の事業組織がそれぞれの組織的目的を達成するにあたって、それに(6) コウケンする個人の能力に差があるのを前提にせねばならないのは当然である。公務員を採用する際に試験が課されたりするのは、主にこの能力を問うているのである。この側面に着目して、「すぐれた者の支配」を問題にするなら、それはほぼ「A」支配と同じ意味になるだろう。サンシモンなどの描く、合理化された国家のイメージは、この種の貴族制(「科学的」な知において卓越するものの支配)に接近する。国民の全体を、この種の事業共同体の中に取り込み、国家事業としての一定の目的追及を志向するような国家観は、特に戦時などには現実性をもつ。それにタイコウする、もう一つの、しかしこの論考との関連では、それも満足なものとはいえない発想は、民主主義の「B」者モデルとでもいえるものである。

行政の専門家たちが確かにもっている能力は、事前に与えられている個々の目的の組織的追及に偏った能力であるから、専門家たちによって供給される様々な行政サービスの受け手または「B」者としての国民が、議会または選挙を通じた意思の表示によってこの供給をコントロールすることは、必要でもあるし、一定の限度で可能でもある。この場合、混合政体において官僚的貴族制とも一方の極をなす民衆支配に要求される知は、「賢い」「B」者」としてのそれである、といってよいかもしれない。行政に外部からかわり、それに注文を出すとともに、それからの説明を受けて行政上の要求にも応じる、という議会の性質は、イギリスやフランスの絶対王制下の議会において、より明快に示されるが、議会というものは、もともとここから出発したのである。市場における財の供給においては、一般に供給者のほうが「B」者よりも専門家であって、その意味で「知者」であるが、その知は「A」「B」者主権に服する。「B」者は、自分で財の供給の知識を持たなくとも、複数の供給者間の競争によって、自分の希望をよりよく実現する商品が登場すると期待できるのであり、この競争においては、「B」者の嗜好は、前提であるとともに目的となるという意味で、権威において優越するのである。サービスの供給者の側で、その嗜好を変えようと試みることに(マーケティング)は許されているが、それに応じる義務が「B」者の側にあるわけではない。この種の市場的モデルで民主主義を捉えることによって、プラトンの挑戦に対する一定の解答も用意できるかもしれない。専門家のもつ知は、普通一義的に正しい解答をもたらすものではなく、専門家の中でも意見を(7) ウにすることにしているのが一般である。それ以上に専門家は、何を目的として設定すべきか自体を選択する上での知を、一般人以上にもっているわけではない。それゆえ、その目的の設定と実現のカテイでの手段選択においてどの専門家の意見を聞くかの決定は、民主主義を通して国民が行うのだ、というわけである。若干戯画化されているかもしれないが、ここにあるのは、現代において支配的な一つの民主主義像であるように思われる。

「C」、社交体としての国家にかかわる能力において「すぐれた者」は、これと(8) ウとなっていないのではないだろうか。政府組織はこの社交体の一つの部分にすぎず対内的には事業組織であつても、その外にはそれと別の事業を目的にする他の組織や個人が多数存在する。それらの全体が社交体をコウセイするが、政府はその中で、強制力をもってこの社交体の条件の維持にあたることを主な目的にする、特異で独占的ではあるが、一つの組織にすぎない。社交体としての国家を成立させている条件またはルールは、政府組織を含む全体に妥当する「法」の確認や修正としての本来の「立法」によって、明示化される。この部分においてこそ、民主主義が問題とされねばならないのである。

出典：嶋津格『問いとしての「正しさ」——法哲学の挑戦』。ただし、出題の都合上、一部省略、改変した箇所がある。

問一 傍線部 (a) ～ (f) の漢字の読みを書きなさい。

問二 傍線部 (1) ～ (6) のカタカナを漢字に直したとき最も適切なものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|------|------|------|
| (1) ア 退寺 | イ 胎児 | ウ 退治 | エ 対峙 |
| (2) ア 過程 | イ 仮定 | ウ 家庭 | エ 課程 |
| (3) ア 大体 | イ 代替 | ウ 大隊 | エ 大腿 |
| (4) ア 更生 | イ 校正 | ウ 公正 | エ 構成 |
| (5) ア 対抗 | イ 大綱 | ウ 対向 | エ 退行 |
| (6) ア 後見 | イ 高検 | ウ 貢献 | エ 公権 |

問三 波線部ア～エの「こと」のうち、「異」という漢字で表すことができるものの組み合わせを一つ選び、番号で答えなさい。

- (1) アとイ (2) ウとエ (3) アとエ (4) イとウ

問四 二重傍線部「世襲」の意味として最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親から継承した財産の有無で地位が決まること。
イ 投票によって地位が決まること。
ウ 地位を子孫が代々継承すること。
エ 収入額によって地位が左右されること。

問五 「A」にあてはまる最も適切な語を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 政治家 イ 官僚 ウ 国王 エ 庶民

問六 「B」に共通してあてはまる最も適切な語を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 消費 イ 提供 ウ 需要 エ 供給

問七 「C」にあてはまる最も適切な語を一つ選び、記号で答えなさい。

- ア それゆえに イ つまり ウ しかし エ あるいは

問八 本文の内容と一致するものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 古代ギリシャでは、ポリスから独立の個人と、その権利と自由の思想で満ちあふれていた。
イ 徳としての自由と徳を備える人々の民主主義という戦略は、現代においてはさほど意味をなさなくなつた。

ウ アテナイの政治マニアと市民ではいづれが人間として本質的か、という問いに意味がある。

エ 行政の目的や手段の選択においてどの専門家の意見を聞くかの決定は、民主主義を通して国民が行うものである。

問九 本文中で、筆者は、国家という社交体の中での政府の役割についてどのように位置づけているか。そのことを最も具体的に示す一文の**最初の五文字**を答えなさい。